熊谷市
記者クラブ取材情報

令和4年1月27日発表
担当課：社会教育課
（市史編さん室）

タイトル

県下初の自由民権結社「七名社」の史料集刊行、稲村貫一郎の日記を新発見

1．日時

2．場所

3．事業概要

熊谷の歴史に関する貴重な古文書を収録した熊谷市史料集の７冊目として、「熊谷自由民権運動史料１　七名社の時代」を刊行しました。この史料集には、新たに発見された市内上川上出身で県会（現在の県議会）副議長を務めた人物である稲村貫一郎の日記「烟雲（えんうん）雑誌」も収録しました。

七名社とは、明治８年（1875）に埼玉県で初めて組織された自由民権結社で、熊谷と近隣の７名の若者（熊谷宿・石川弥一郎、上川上村・稲村貫一郎、中奈良村・石坂金一郎、上中条村・中村孫兵衛、三ヶ尻村・小泉寛則、玉井村・鯨井勘衛、北河原村・長谷川敬助）で設立されました。自由民権論の討論や演説会、さらには県の政策に対する提言を行っています。彼らは、県北地域を牽引する先覚者となり、国政、県政、あるいは財界で大きな足跡を残すこととなります。この７名と周辺の人物たちの史料を掲載し、１点ごとに解説をつけています。

「烟雲雑誌」は、稲村貫一郎が明治11年～14年にかけて日々のできごとを記した日記で、市内個人のお宅から発見されました。七名社や周辺の人びとの具体的な足跡が分かる大変貴重な史料です。

稲村貫一郎は、県会副議長を務めた後、財界に新出し、熊谷銀行と熊谷貯蓄銀行の２行を経営、牛乳販売なども行いました。日本公許女性医師第一号の荻野吟子の最初の夫でもあります。また、女流画家奥原晴湖は、晩年、貫一郎を頼って上川上に移ります。

4．特徴やPRポイント

１　渋沢栄一が活躍した時代、熊谷でも優秀な若者たちによって、その時代をリードする活動が行われていたことが分かる史料集です。

２　稲村貫一郎は、政界、財界などさまざまな分野で、熊谷のために大きく貢献した郷土の偉人です。その一端をうかがえる貴重な日記が発見され、その内容を掲載しています。

5．その他

１部 1,000円にて販売中です。
販売場所は、熊谷市役所６階社会教育課、熊谷図書館３階美術・郷土展示室、江南文化財センター、戸田書店熊谷店（肥塚四丁目）、むすぶん堂（めぬま館内）です。

※ 資料の有無（ 有 ・ 無 ）

担当者　社会教育課市史編さん室　蛭間　健悟、水品　洋介
連絡先　０４８－５６７－０３５５